

令和5年度

# 地域クラブ活動推進に係る アンケート調査

結果報告書

令和5年（2023年）12月

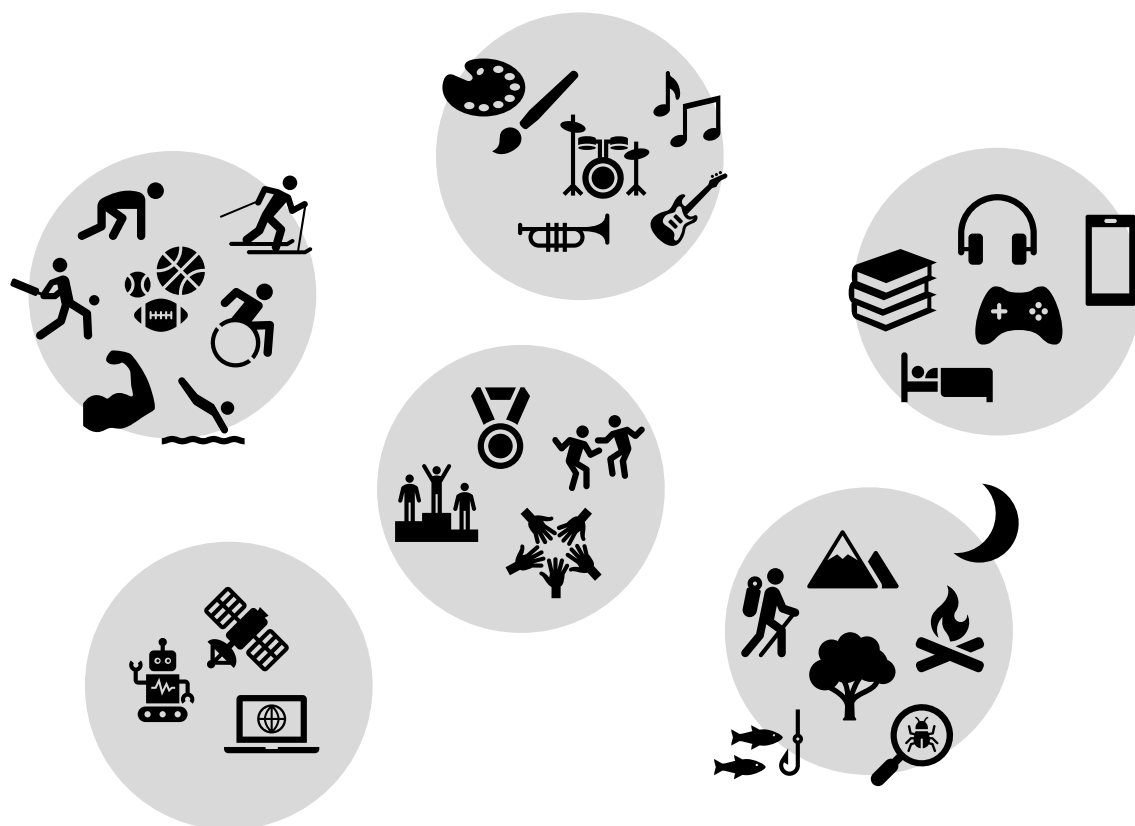
上田市教育委員会事務局 学校教育課

# 調査にあたって

---

国が示す部活動地域移行を推進するにあたっては、次頁に示す本アンケート調査における子どもたちへの説明資料のとおり、子どもたちの健やかな成長のための前向きな契機と捉えている。

現在の活動ありきではなく、そもそも子どもたちがどのように過ごしたいのかといった視点を含めつつ、学校部活動や地域クラブに対するニーズの把握のため、本調査を行った。



# (参考) 子どもたちへの説明資料

## 運動部・文化部活動アンケートのおねがい

上田市教育委員会（学校教育課）

小中学生のみなさんのすこやかな成長をねがい、**部活動のあり方**を大人たち一丸となって見直しています。

みなさんにとってよりよい活動となるよう、部活動を学校の活動ではなく、**地域の活動**にしようと全国的に取り組んでいます。※**まずは休日の活動から**

**地域の活動**：スポーツ少年団、文化少年団、総合型地域スポーツクラブ、クラブチームなどでの活動。今後、学校部活動の地域クラブ化や、新たな団体の設立も考えられます。

部活動が学校の活動ではなく、**地域の活動**になると…

**自分に合った地域クラブを自分で選択できる！**

### こんな不満を解決

- やりたい種目・活動が学校の部活動になかった…
- 自分の学校では人数が少なく、チームを組めなかった…
- 大会上位を目指せる強いチームで練習したかった…
- 大会のことよりも友だちと楽しく活動したかった…
- 色々な種目・活動を経験したかった…
- 休日は家でゆっくり過ごしたい…

それぞれの  
理想にかなう  
活動へ

ほかにも

学校部活動が**地域の活動**になることによって

**先生たちの働き方改革に！**

先生たちの健康を守ることはめぐりめぐって、児童生徒のみなさんのためにもなります。

部活動の見直しをよい方向へ進めるために、みなさんの考えを教えてください。

アンケートURL

<https://~~~~~>（実際のURLは秘匿）

回答期限

令和5年 **11**月 **24**日

QR

# 調査の基本情報

**調査時期**

令和5年（2023年）11月

## 調査対象・回答状況

上田市立小・中学校の小学5・6年生／中学1・2年生の児童生徒及びその保護者、中学校教員を対象とした。

上田市立小・中学校		調査対象者数	回答者数	回答率
児童生徒	小学5・6年生	2,602	1,830	70.3%
	中学1・2年生	2,516	1,723	68.5%
	計	5,118	3,553	69.4%
保護者	小学5・6年生	2,602	1,761	67.7%
	中学1・2年生	2,516	1,357	53.9%
	計	5,118	3,118	60.9%
教員	中学校教員	269	154	57.2%

※ 調査対象者数は、令和5年5月1日現在の数値を基にした。

※ 保護者については、子どもの兄弟姉妹関係がある場合には回答を1回としたため、実際の調査対象者数は上表よりも少ない。

※ 教員は、管理職を除く。

## 調査方法

無記名調査

児童生徒 : Webによるアンケートフォームから回答

保護者 : 紙のアンケート用紙から回答

教員 : Webによるアンケートフォームから回答

結果分析

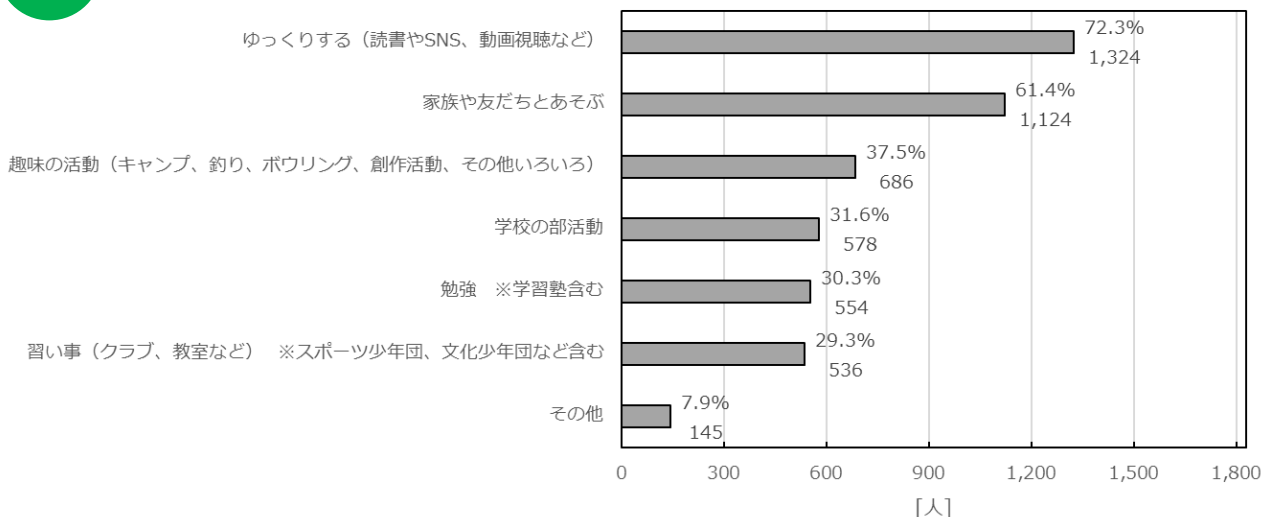
兒童生徒

編

# 【結果分析】 児童生徒 編 (休日の過ごし方について)

小

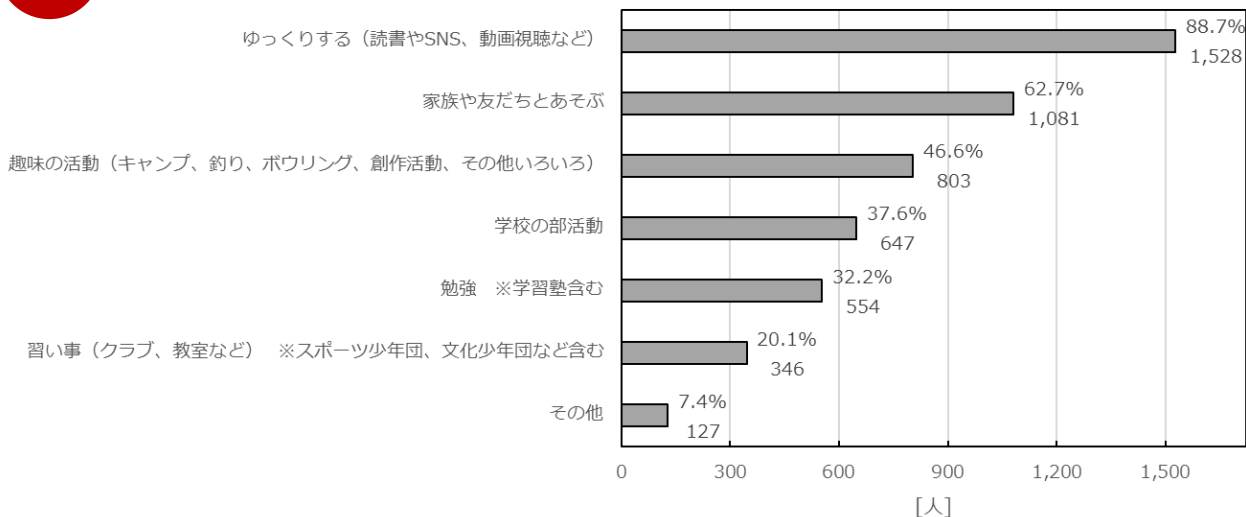
中学生になったら休日には何をしたいですか？（複数選択可）



回答母数：1,830（全回答者）

中

休日には何をしたいですか？（複数選択可）



回答母数：1,723（全回答者）

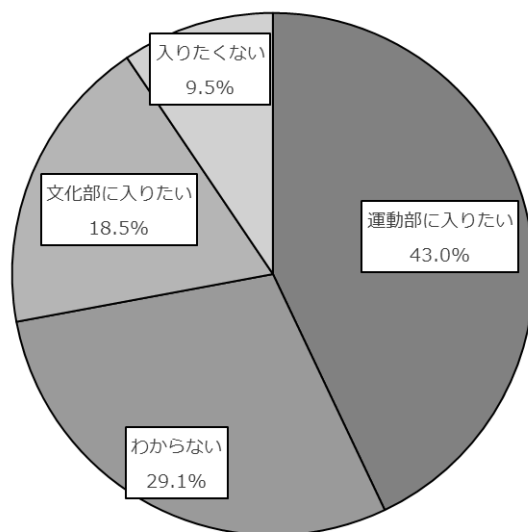
考察

- 多くの児童生徒が、休日はゆっくりしたり、家族や友達とあそんだりしたいと思っている。
- 休日に学校部活動をやりたい割合は3割台と少数派

## 【結果分析】 児童生徒 編 (学校部活動について)

小

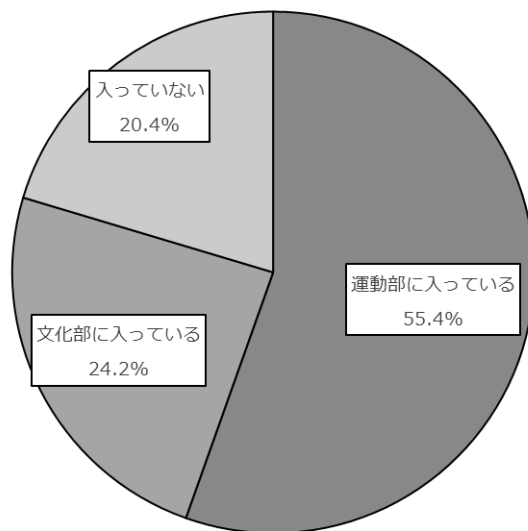
中学生になったら学校の部活動に入りたいですか？



回答母数：1,830 (全回答者)

中

学校の部活動に入っていますか？



回答母数：1,723 (全回答者)

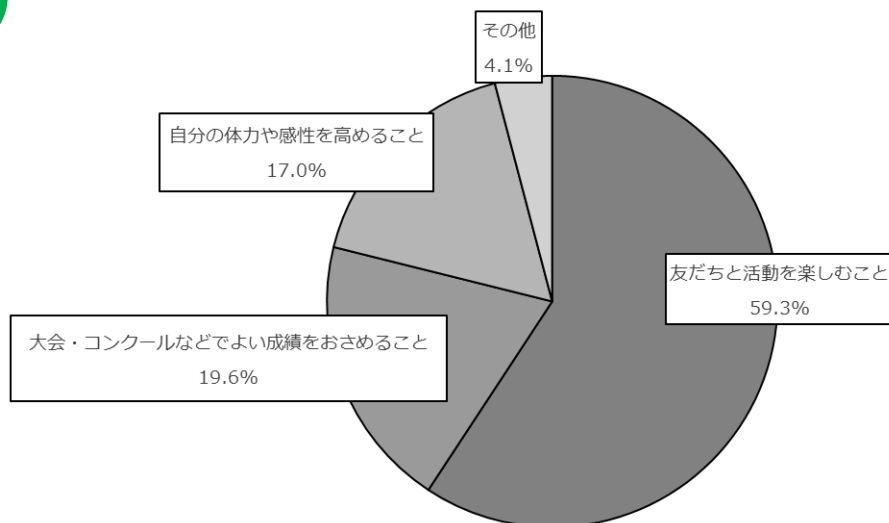
考察

- 学校部活動に入りたい／入っている割合は、小学生約6割／中学生約8割と高い。
- 先の質問項目から学校部活動の休日活動の需要は小さいが、平日活動の需要は大きいと思われる。

# 【結果分析】 児童生徒 編 (学校部活動について)

小

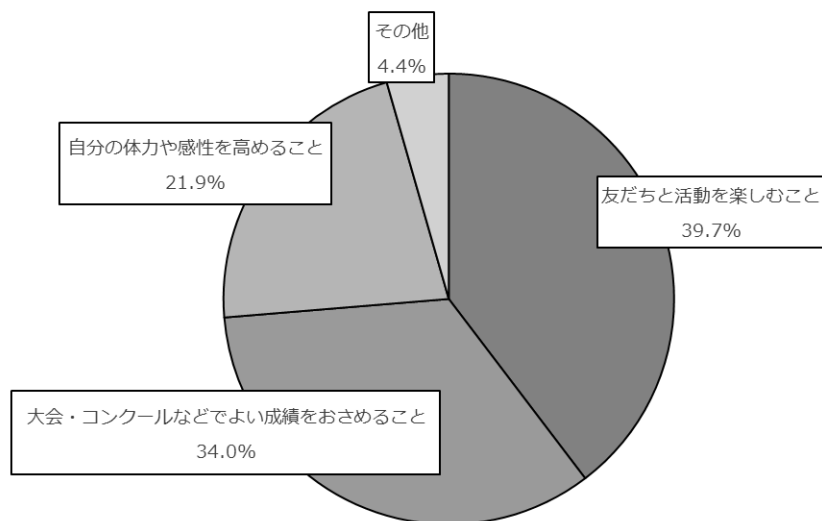
部活動で大事にしたいことは何ですか？（最も当てはまるものを1つ選択）



回答母数：1,657（運動部に入りたい・文化部に入りたい・わからない を選択）

中

部活動で大事にしていることは何ですか？（最も当てはまるものを1つ選択）



回答母数：1,372（運動部に入っている・文化部に入っている を選択）

考察

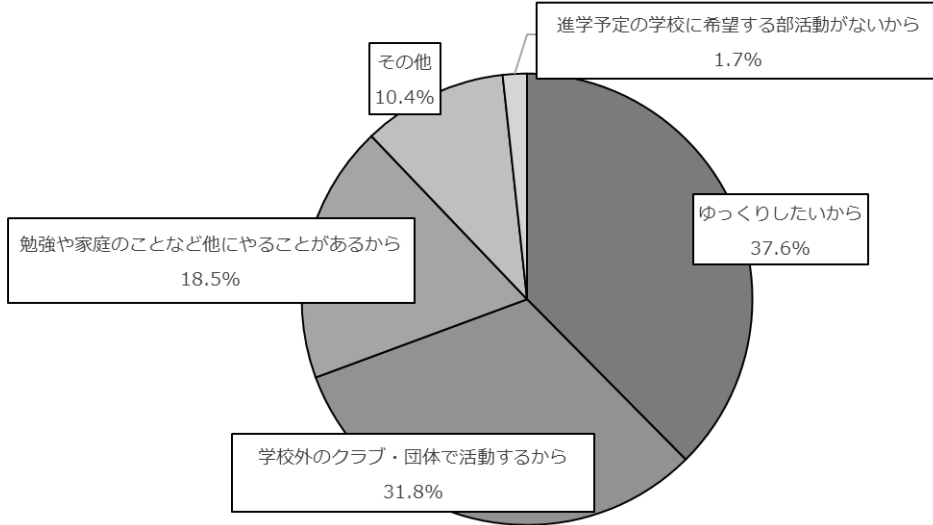
- 学校部活動に入りたい／入っている人にとって大事なこと第1位は「友だちと活動を楽しむこと」
- ただし、中学生になると「大会・コンクールなどでよい成績をおさめること」の割合が高まることから、実際に活動することでの気持ちの変化があると思われる。



# 【結果分析】 児童生徒 編 (学校部活動について)

小

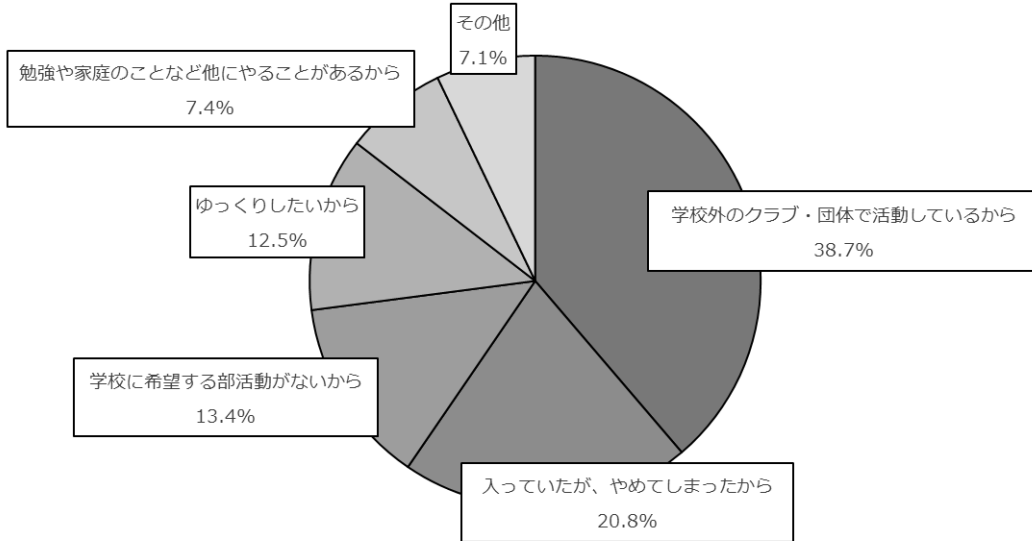
部活動に入りたくない理由は何ですか？（最も当てはまるものを1つ選択）



回答母数：173（部活動に入りたくない を選択）

中

部活動に入っていない理由は何ですか？（最も当てはまるものを1つ選択）



回答母数：351（部活動に入っていない を選択）

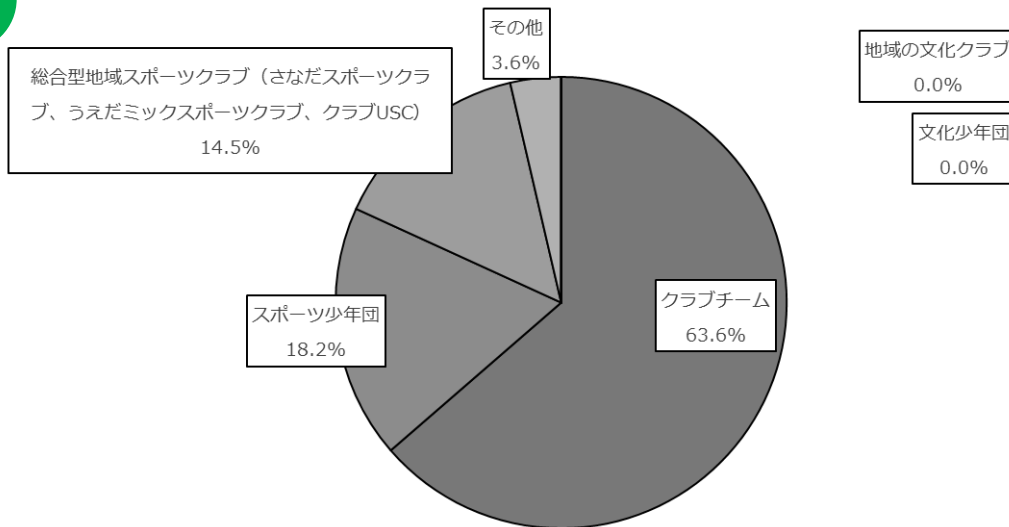
考察

- 学校部活動に入りたくない／入っていない人のうち、約3割～4割は「学校外のクラブ・団体に活動する／している」
- それ以外では、小学生「ゆっくりしたい」、中学生「入っていたが、やめてしまった」の割合が高い。

# 【結果分析】 児童生徒 編 (学校外の所属団体について)

小

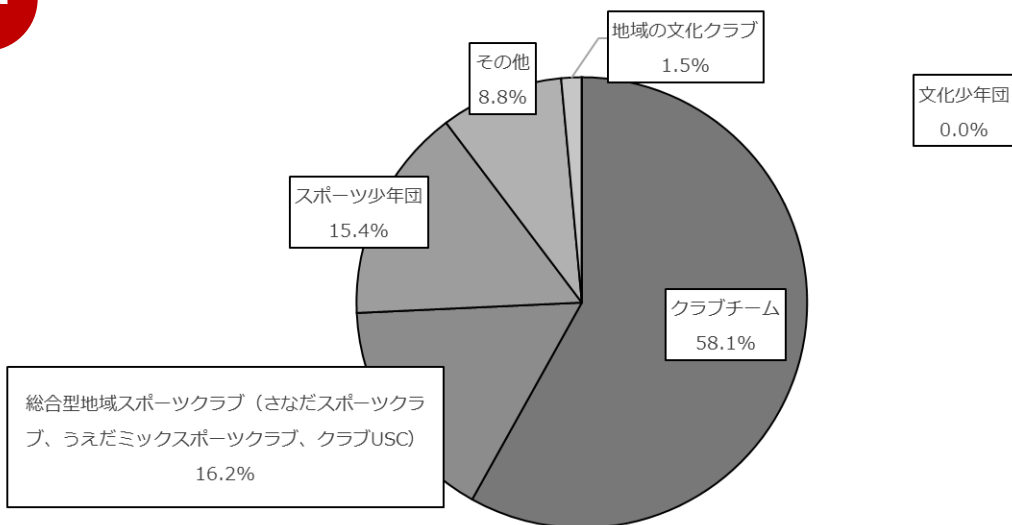
学校外のクラブ・団体とは具体的にどのようなものを指しますか？



回答母数：55 (部活動に入りたいくない かつ 学校外のクラブ・団体に活動をする を選択)

中

学校外のクラブ・団体とは具体的にどのようなものを指しますか？



回答母数：136 (部活動に入っていない かつ 学校外のクラブ・団体に活動をしている を選択)

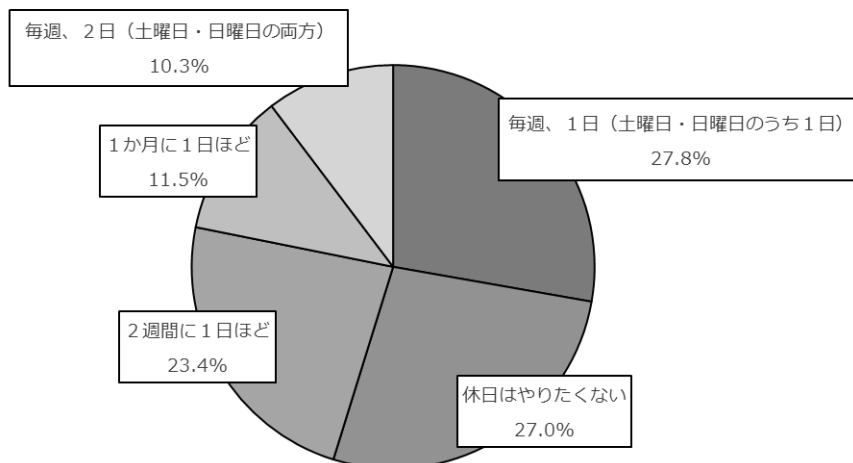
考察

- 学校外のクラブ・団体に活動する／している人のうち約6割が「クラブチーム」に所属する／している。
- ただし、「クラブチーム」所属は、全回答者数からみると、小学生1,830人中35人(1.9%)／中学生1,723人中79人(4.6%)である。

# 【結果分析】 児童生徒 編 (休日の活動頻度について)

小

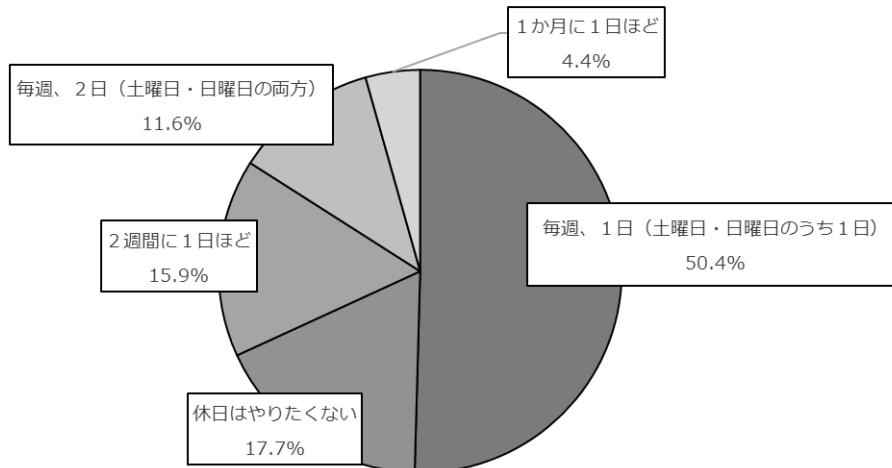
学校部活動が休日の地域クラブ活動になった場合、その回数はどれくらいがよいですか？（最も当てはまるものを1つ選択）



回答母数：1,657（運動部に入りたい・文化部に入りたい・わからない を選択）

中

「休日」の学校部活動の回数はどれくらいがよいですか？（最も当てはまるものを1つ選択）



回答母数：1,372（運動部に入っている・文化部に入っている を選択）

考察

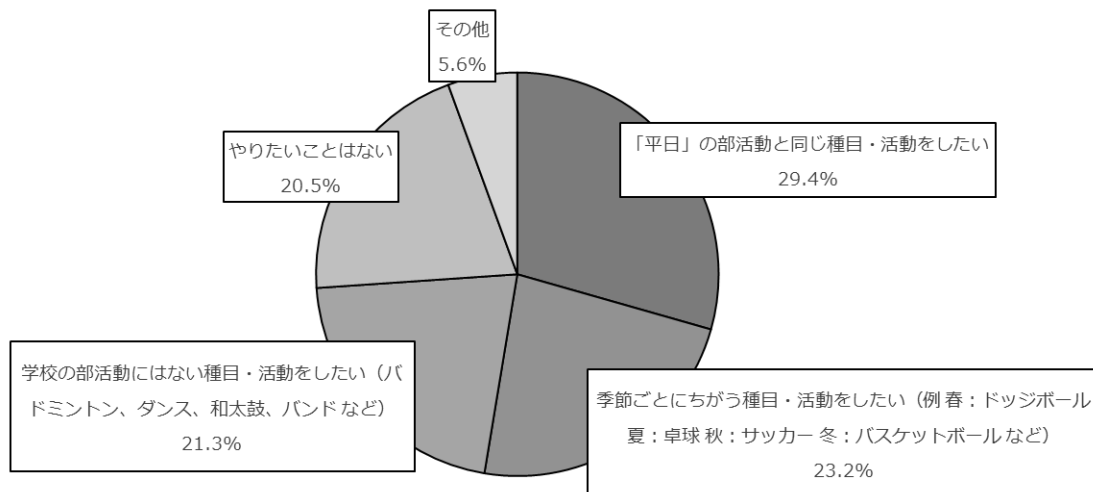
- 学校部活動に入りたい小学生のうち約6割／入っている中学生のうち約4割は、「毎週」活動をしたいとは思っていない。（「休日はやりたくない」「2週間に1日ほど」「1か月に1日ほど」の合計）

# 【結果分析】 児童生徒 編 (地域クラブ活動について)

小

学校部活動が休日の地域クラブ活動になった場合、やりたいことはありますか？

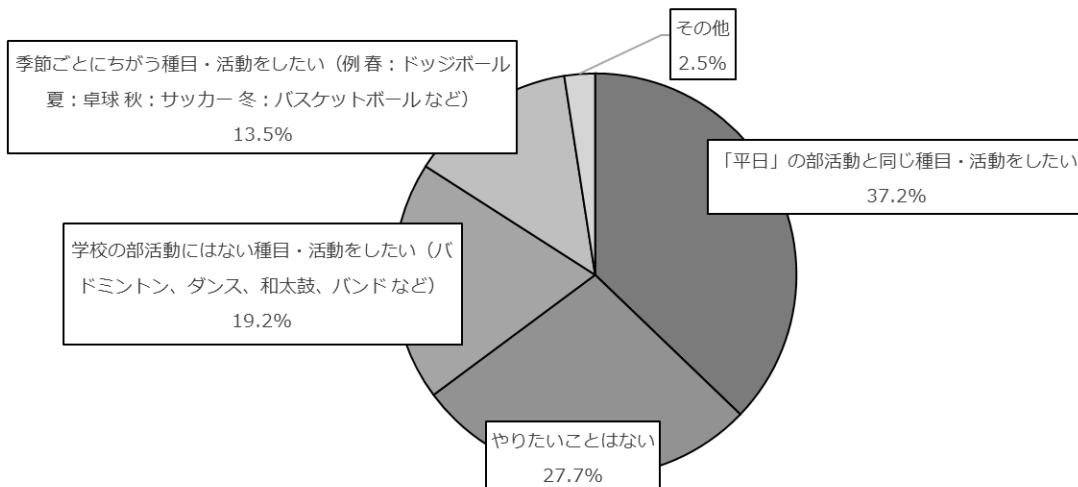
(最も当てはまるものを1つ選択)



回答母数：1,775 (全回答者のうち 学校外のクラブ・団体で活動をする 以外を選択)

中

「休日」の学校部活動が地域クラブ活動になった場合、やりたいことはありますか？ (最も当てはまるものを1つ選択)



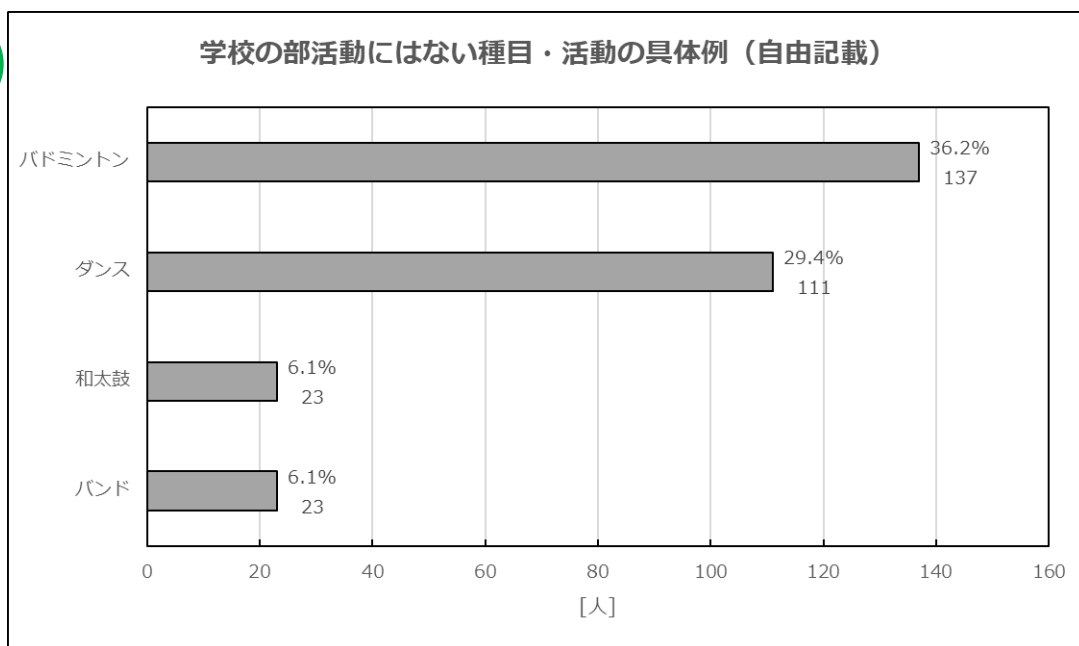
回答母数：1,587 (全回答者のうち 学校外のクラブ・団体で活動をしている 以外を選択)

考察

- 休日の地域クラブ活動について「平日の学校部活動と同じ活動をしたい」人は小学生約3割／中学生約4割
- 「学校の部活動にはない活動」「季節ごとにちがう活動」をしたい人は小学生約4割／中学生約3割で、新たな活動も期待されている。

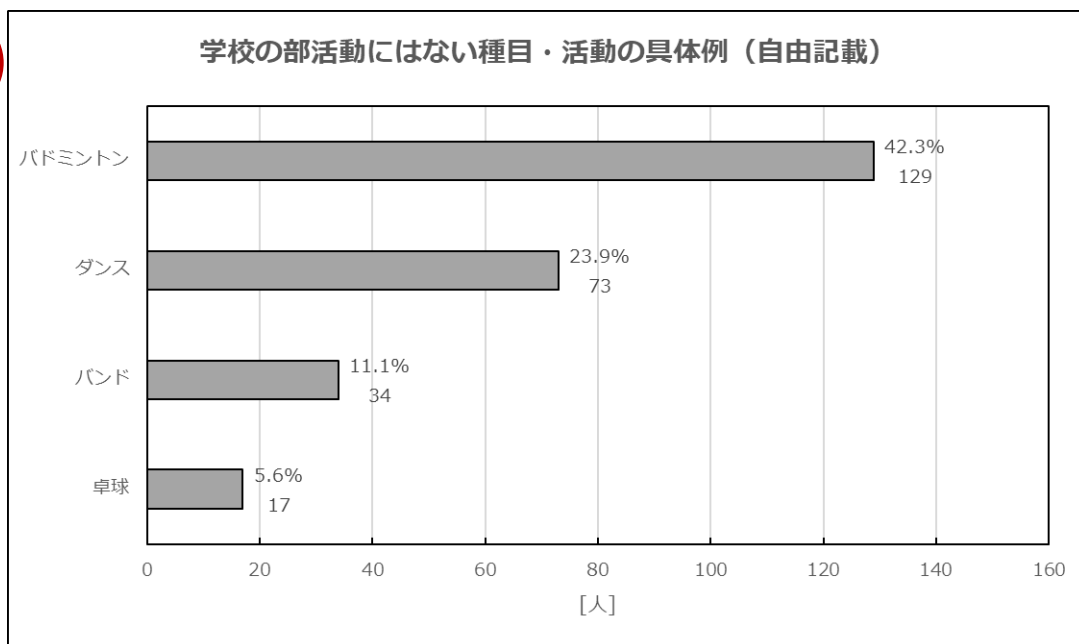
# 【結果分析】 児童生徒 編 (新たな活動について)

小



回答母数 : 378 (学校の部活動にはない種目・活動をしたい を選択)

中



回答母数 : 305 (学校の部活動にはない種目・活動をしたい を選択)

考察

- 学校の部活動にはない活動をしたい人の中では「バドミントン」や「ダンス」の人気の高い。
- ほかに、小学生「和太鼓」「バンド」/中学生「バンド」「卓球」に一定の需要がある。(「卓球」が含まれるのは、卓球部がない中学校もあるため。)

結果分析

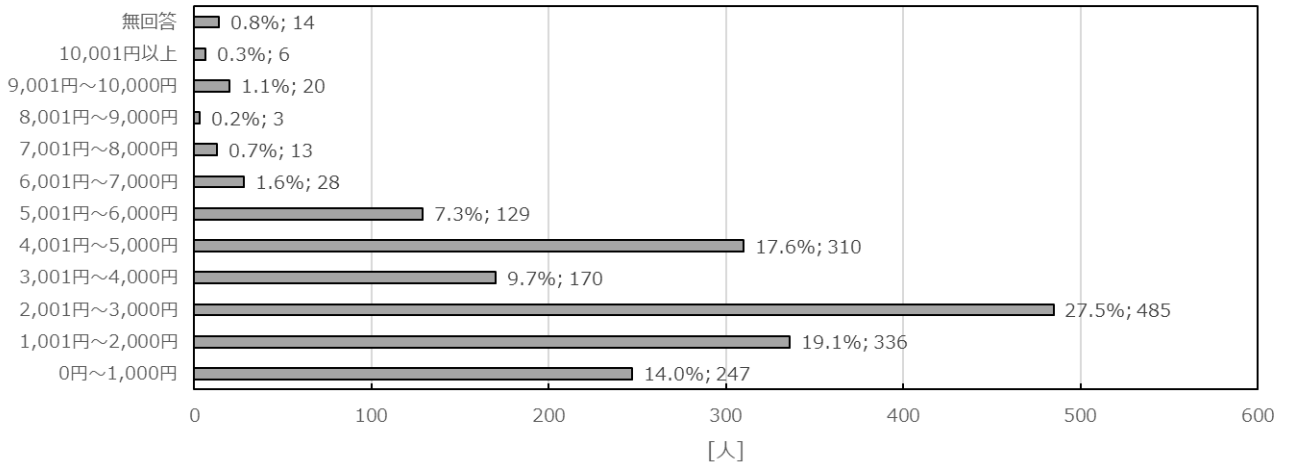
保護者

編

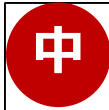
# 【結果分析】 保護者 編 (月謝について)



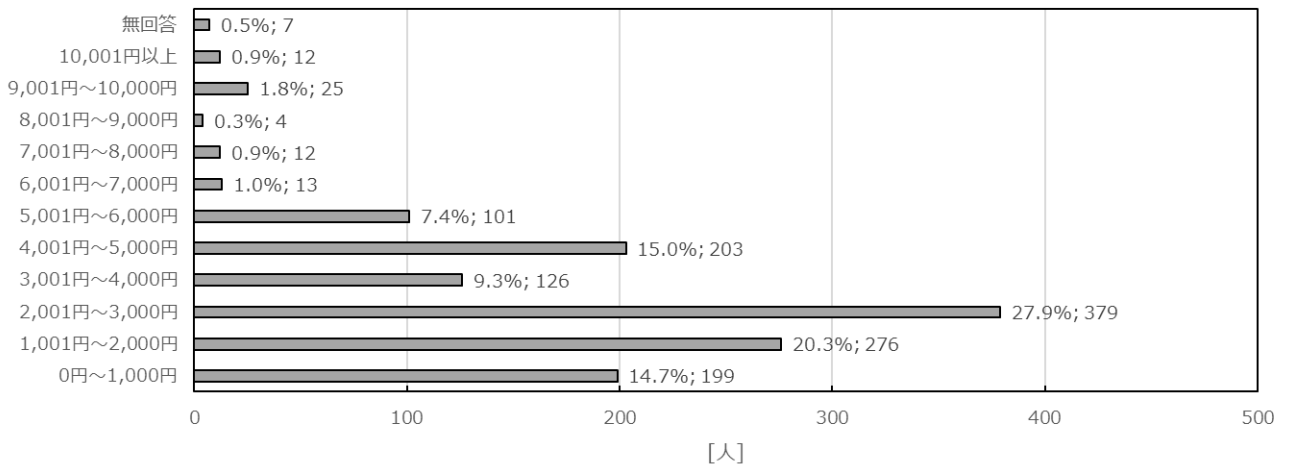
地域クラブ活動への移行により月謝の許容できる金額 (最も当てはまるものを1つ選択)



回答母数 : 1,761 (全回答者)



地域クラブ活動への移行により月謝の許容できる金額 (最も当てはまるものを1つ選択)



回答母数 : 1,357 (全回答者)

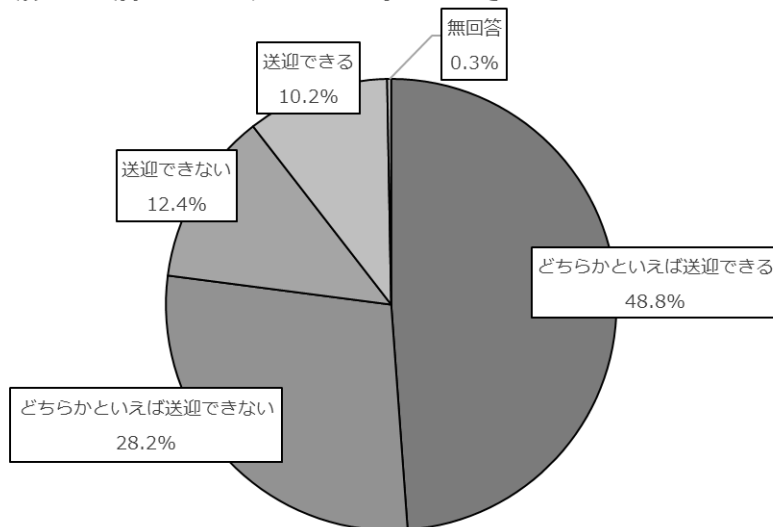


- 許容できる月謝は「2,001円~3,000円」の割合が約3割で最も高い。
- 「3,000円以下」の割合は約6割を占める。(「0円~1,000円」「1,001円~2,000円」「2,001円~3,000円」の合計)

## 【結果分析】 保護者 編 (送迎について)

小

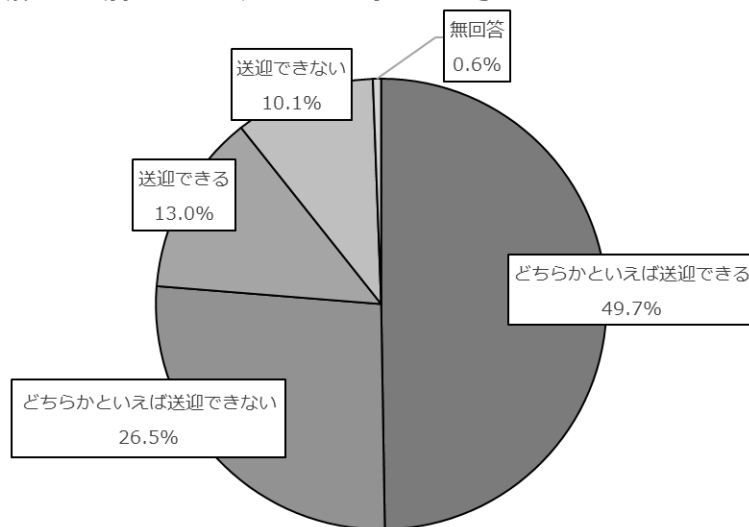
地域クラブ活動への送迎の可否 (最も当てはまるものを1つ選択)



回答母数 : 1,761 (全回答者)

中

地域クラブ活動への送迎の可否 (最も当てはまるものを1つ選択)



回答母数 : 1,357 (全回答者)

考察

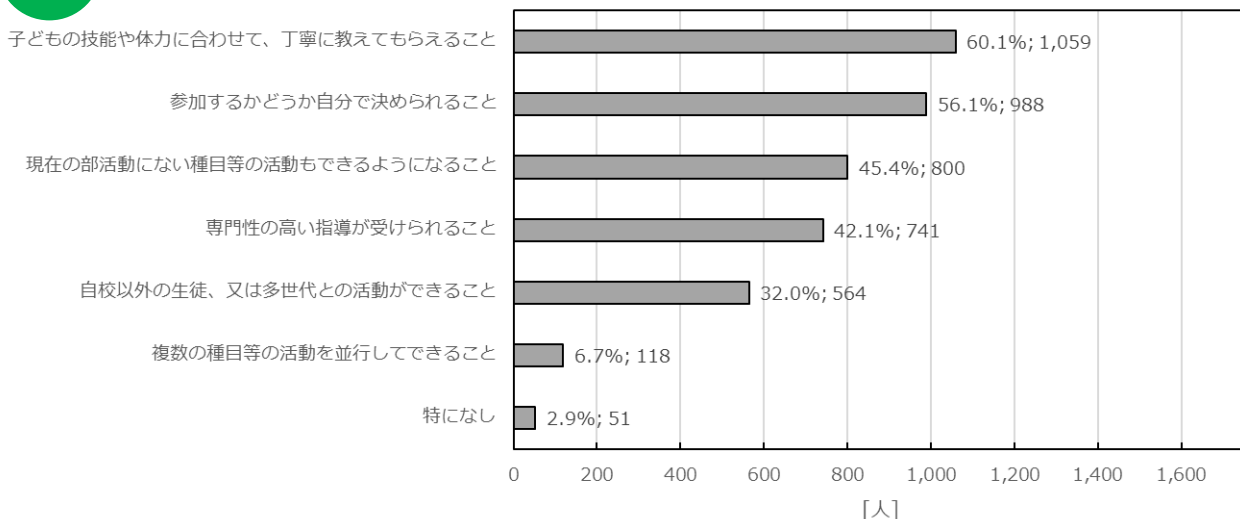
- 「どちらかといえば送迎できる」の割合が約5割で最も高い。
- 一方で「送迎できない」「どちらかといえば送迎できない」の合計は約4割で、送迎が難しい保護者も多い。



# 【結果分析】 保護者 編 (地域クラブ活動への期待)

小

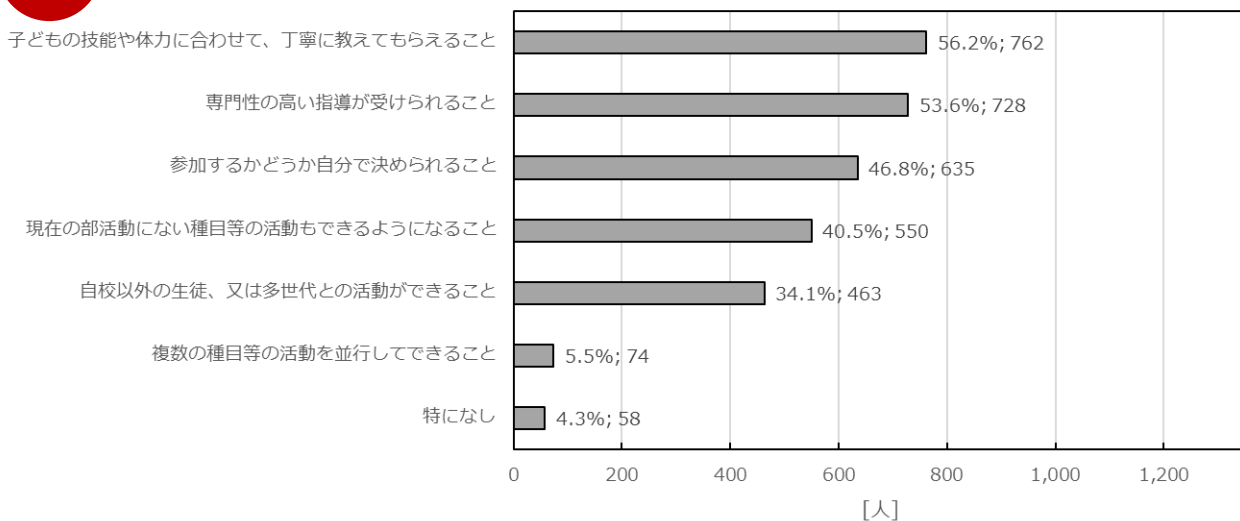
## 新たな地域クラブ活動に臨み、期待すること (上位3つまでを選択)



回答母数：1,761 (全回答者)

中

## 新たな地域クラブ活動に臨み、期待すること (上位3つまでを選択)



回答母数：1,357 (全回答者)

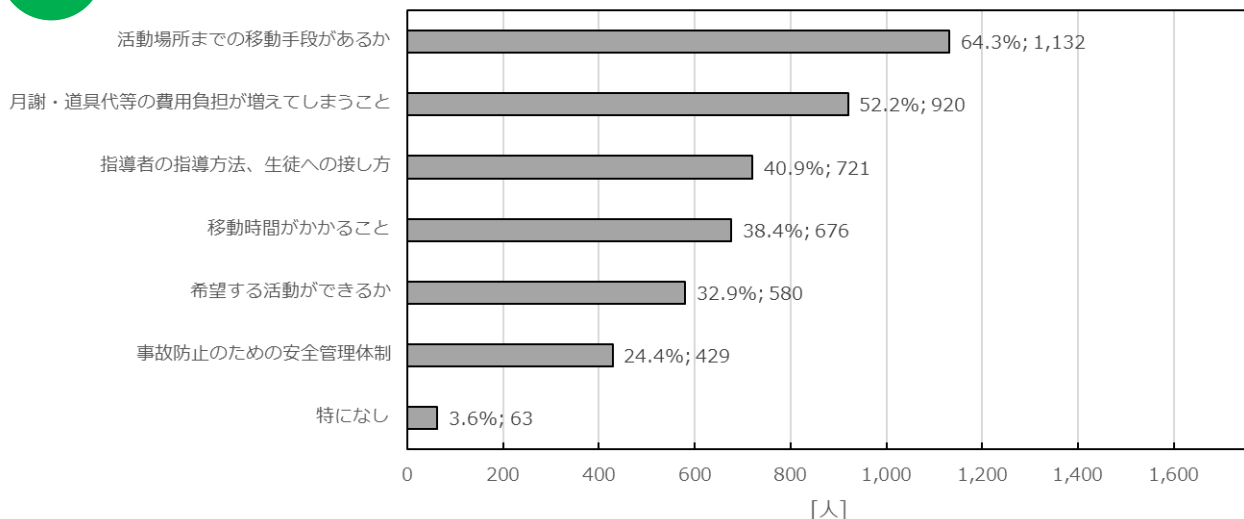
考察

- 期待すること第1位は「技能や体力に合わせて、丁寧に教えてもらえること」。また、「専門性の高い指導」の割合も高く、レベルに応じた指導が期待されている。
- ほかに「参加するかどうか自分で決められる」「現在の部活動にない種目等の活動ができる」の割合も高い。

# 【結果分析】 保護者 編 (地域クラブ活動への不安)

小

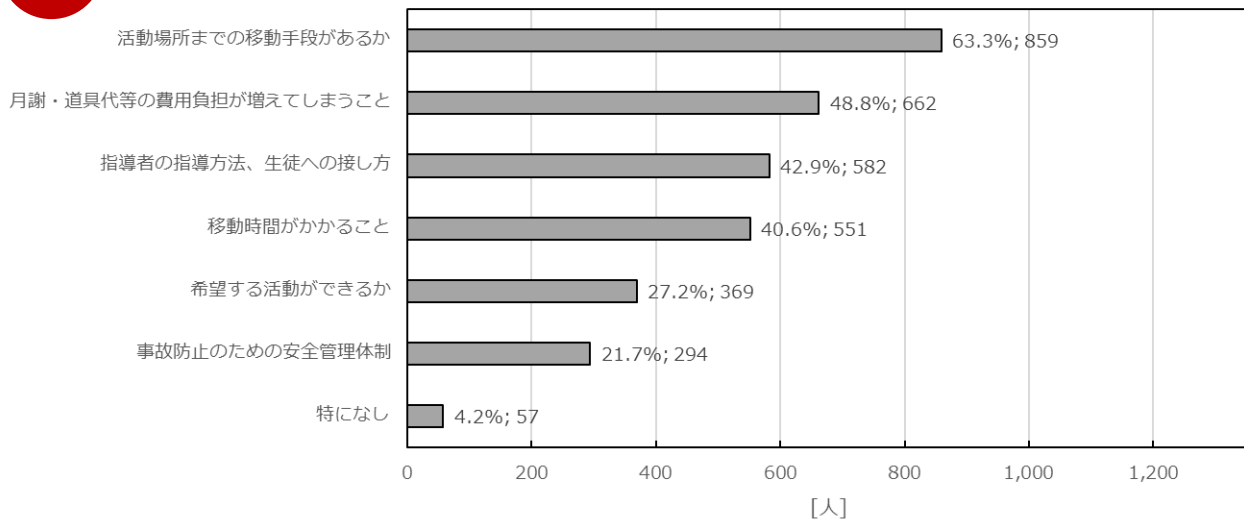
## 地域クラブ活動に移行する場合に不安に感じること（上位3つまでを選択）



回答母数：1,761（全回答者）

中

## 地域クラブ活動に移行する場合に不安に感じること（上位3つまでを選択）



回答母数：1,357（全回答者）

考察

- 不安に感じること第1位は「活動場所までの移動手段があるか」。また、第4位は「移動時間がかかること」であり、移動に関する不安がうかがえる。
- ほかに「費用負担」や「指導」に関する不安もうかがえる。

結果分析

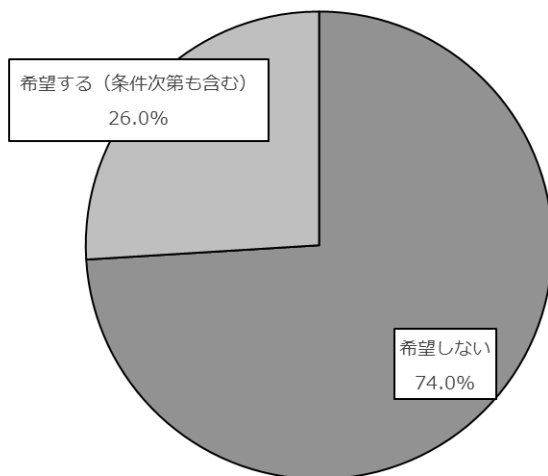
教員

編

## 【結果分析】 教員 編 (休日の指導希望について)

中

休日の部活動が地域移行されたとき、兼職兼業により地域  
クラブ等の指導者になることを希望しますか？



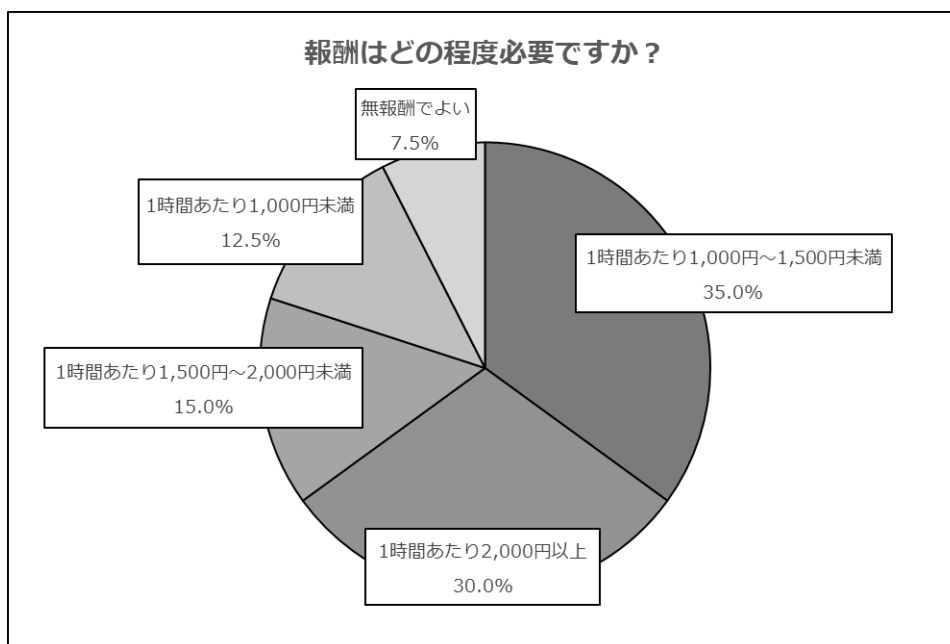
回答母数：154 (全回答者)

考察

- 中学校教員の約4分の3が休日の兼職兼業による指導を「希望していない」。
- 指導を「希望する」には、条件次第も含まれるため、報酬等の条件が合わなければ「希望しない」割合が増えるものと思われる。
- 多くの教員が休日の指導を望んでいないことがわかる。

## 【結果分析】 教員 編 (報酬について)

中



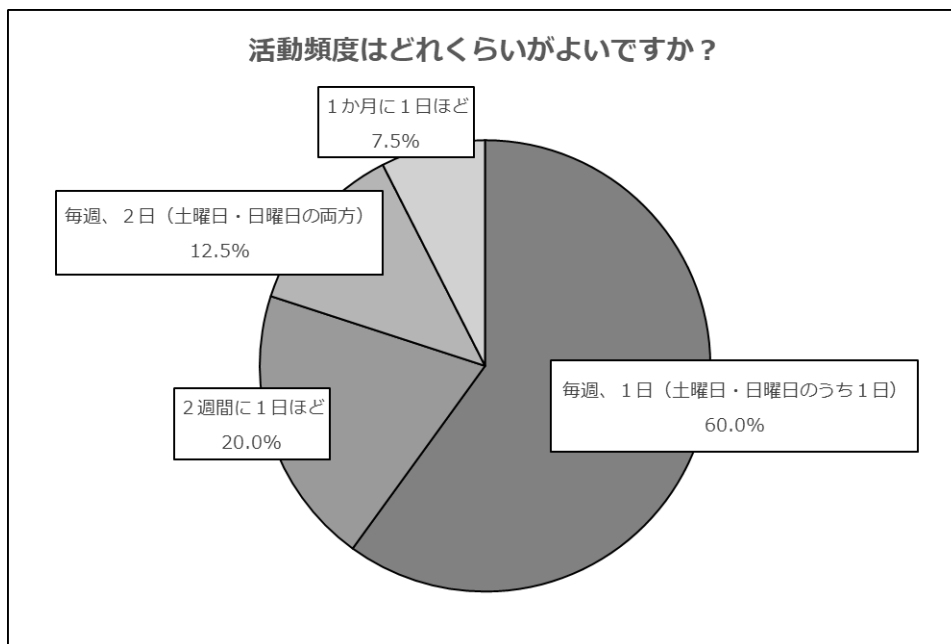
回答母数：40 (指導を希望する (条件次第も含む) を選択)

考察

- 指導を希望する教員の中でも8割が「1時間あたり1,000円以上」の報酬を希望している。(「1,000円～1,500円未満」「1,500円～2,000円未満」「2,000円以上」の合計)
- なお、指導を希望する教員のうち3割は「1時間あたり2,000円以上」の報酬を希望している。
- 「無報酬」でも指導を望む教員は1割に満たない。

## 【結果分析】 教員 編 (休日の活動頻度について)

中

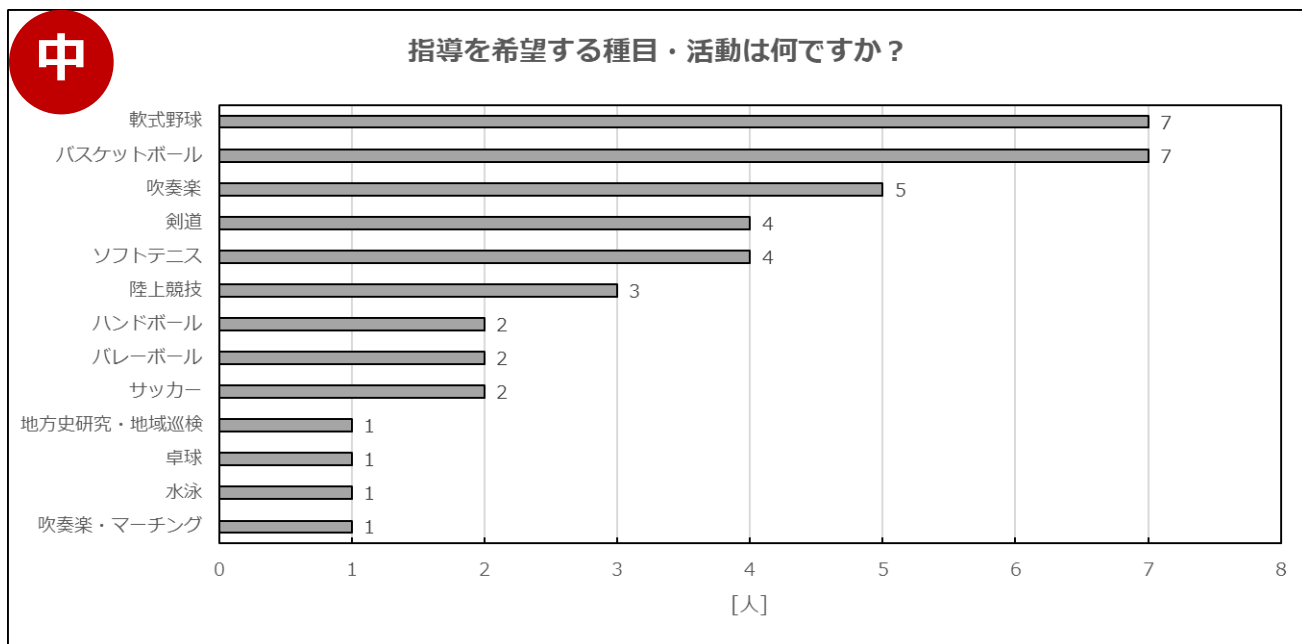


回答母数：40 (指導を希望する (条件次第も含む) を選択)

考察

- 指導を希望する教員の中でも約3割は「毎週」の指導を望んでいない。(「2週間に1日ほど」「1か月に1日ほど」の合計)

## 【結果分析】 教員 編 (希望種目・活動について)



回答母数：40（指導を希望する（条件次第も含む） を選択）

### 考察

- 指導を希望する教員のうち9割は、学校部活動にある種目・活動の指導を望んでいる。

# まとめ

## 児童生徒

- 学校部活動に入りたい／入っている人の割合は高く（小学生約6割／中学生約8割）、平日の部活動の需要は大きい。
- 一方で、休日の学校部活動の需要は小さく（全体の3割台）、休日は「ゆっくりしたい」「家族や友達とあそびたい」と思っている人が多い。
- 活動の中では「友達と活動を楽しむこと」を大事にしている人が多い。
- 学校部活動を希望する人の中でも、おおよそ半分は休日について「毎週」の活動を希望していない。
- 休日の地域クラブ活動について「平日の学校部活動と同じ活動をしたい」人は3割台であり、新たな活動も期待されている。

- 学校部活動においては、成績上位・トップアスリートを目指すことよりも楽しむことが重要視されており、また、休日の活動の需要は小さい。
- 学校部活動を地域の活動へ移行するにあたっては、現在の活動をそのまま移行することが望まれているわけではない。

## 保護者

- 許容できる月謝は「3,000円以下」が約6割を占める。
- 送迎は「できない」「どちらかといえばできない」が約4割
- 期待することは「技能や体力に合わせた指導」「専門性の高い指導」や「参加するかどうか自分で決められること」「現在の部活動にない活動」などが多い。
- 不安に感じることは「活動場所への移動」「費用負担」「指導」などが多い。

- 地域クラブ活動においては、参加するかどうかを選択できることや、個のレベルに合った活動、また、現在の部活動にない活動への期待が高く、現在の活動をそのまま移行することが望まれているわけではない。
- 費用負担や移動に関する不安が多く、支援について検討の必要がある。

## 教員

- 休日の指導を希望する中学校教員は少ない。
- 現在、休日において多くの教員が部活動指導にあたっている働き方には問題がある。
- 働き方改革の観点からも、休日は心身を休めていただき、教員の健康を守っていくことが必要。